

令和4年度 退所児童等アフターケア事業 事業報告

令和4年4月1日から令和5年3月31日まで

特定非営利活動法人とりで

◎事業実施の方針

退所児童等の自立を支援する。

退所児童等の日々の悩みや困りごとに対し相談支援を行う。就労を希望する児童等に対しては就労支援を行ない、就労後もサポートを行う。またグループワークを通じて、退所児童同士の交流や情報交換も行う。その他、緊急時には宿泊場所の提供も行う。

◎事業の実施に関する事項（特定非営利活動に係る事業）

【定款の事業名】

退所児童等アフターケア事業

【事業内容】

- (1) 児童養護施設、里親家庭等での養育を終えた子どもに対し、日常生活等における相談、援助を行い、子どもが集まれるような空間を確保し、居場所づくりとしても機能させた。また、法人の連携協定企業と退所児童等の就労受け入れや居住場所の確保（退所児童等アフターケア事務所めぐり：山口県岩国市、これに加え広島県大竹市で退所児童等アフターケア事務所まつり、山口県岩国市で退所児童等アフターケア事務所こたつ）に関する連携を行った。（自主事業）

活動名	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲人数
相談支援	随時	・電話やメール ・めぐり(※)等	職員3名	退所児童等 57名(実人数)
就労支援	随時	・支援内容に準ずる	職員3名	退所児童等 10名(実人数)
グループワーク (スポーツイベント)	月1回程度	・地域の体育館等	職員3名	退所児童等 17名(実人数)
グループワーク (食事会)	月1回程度	・めぐり ・まつり ・こたつ	職員3名	退所児童等 14名(実人数)
緊急宿泊先の提供	随時	・めぐり ・まつり ・こたつ	職員3名	退所児童等 8名(実人数)

※当事業における事務所

<所感>

グループワークはいろんな退所児童が参加できるように（いつも同じ顔ぶれにならないように）、声をかけるメンバーをその都度考えた。遠方にある退所児童に対しては、職員が出張やホーム旅行等で近くに行く際は連絡を取り、会食等をして切れない関係作りに努めた。また、退所児童と会う際は職員感を出さず、これから先も長く付き合えるような付き合い方をしている。

反省点としては、子どもがホームを退所する前には、アフターケア担当者が子どもとホーム職員と密に関わっておくべきだった。今後関わっていく子どもとの関係作りのためには当然時間が必要であるし、また、ホーム職員からこれまでの関わり方や特性等を聞き、今後の方針等を共有しておけば、何かあった際スムーズに協力して問題解決に取り組むことができる。

今後も退所児童が孤立することのないよう、きめ細やかにサポートしていく。